



# 関西支部報

No.141

日本山岳会関西支部  
http://www.jackansai.com

2010年12月

## 中国西藏登山隊創立50周年記念 式典に出席して

重廣恒夫

9月3日、中国西藏登山隊の新しい隊長尼瑪次仁から中国西藏登山隊創立50周年記念式典の招待状が届きました。9月27日

を盛り上げていました。記念式典

早朝、成都空港を飛び立った飛行機が水平飛行に移ると、すぐに天を突き刺すミニヤコンカが姿を現し、眼下には横断山脈の山々が横たわり、そのうちに雪を抱いた頂や水河の流れが見えてきました。15年ぶりに降り立ったラサ空港は日本の地方空港と同じような設備を整えており、ここ10数年のチベットの発展ぶりを象徴していました。その昔、土埃をあげながら走った道路は舗装され、ラサ河特大橋（全長1583m）、嘎拉山トンネル（2447m）、ヤルツアンポー特大橋（3788m）の開通によって、従来の曲水を経由していた時より30km、時間にして30分ほど短縮されたそうです。ラサ市内までの道路には「西藏登山隊創立50周年記念式典」の大きな看板がかかり、祝賀ムード

28日、チベットの強烈な日差しの下で式典が催されました。西藏自治区孟德利副主席や国家体育总局登山運動管理センターの李致新主任から榮譽称号牌や報奨金が授与されたのち、20年以上登山活動に従事した隊員たちに記念のメダルが授与されました。代表して壇上に上がった登山隊員は懐かしい顔ぶればかりでした。式典のあとは博物館の見学、昼食、民族歌謡民族舞踊などのアトラクションと続き最後にクライミングタワーを使った遭難救助のデモンストレーションがおこなわれました。式典には80年チヨモランマ、88年チヨモランマ峰三國友好登山、90年92年ナムチャバルワ峰登山で行動を共にした隊員と昼食や宴会の席上で昔話に花が咲きました。29日は、「高高度登山システム」の現状と今後の展望」についてのフォーラムがあり、各国の

中国西藏登山隊創立50周年記念式典に出席して 重廣恒夫…1  
夏の懇談会に出席して 尾崎 進…3  
夏季懇談会参加者名簿……………4  
欠席者・出席者の便りから……………5  
支部山行報告

4000山グランプリ(第5回) 山内幸子…6  
4000山グランプリ(第6回) 村田かおり…8  
近畿分水嶺踏査(第16回) 廣田猛夫…9  
近畿分水嶺踏査(第17回) 後藤健治…10

ゆるやか山行2「東山三十六峰 神明山から吉田山」 西尾俊子…11  
森の勉強会 斧田一陽…11  
山岳講演会「小島烏水に学ぶもの」について報告 尾野益大…12

第22回 藤木祭 野村 ……14  
第3回 委員会議事録……………15  
小島烏水と四国⑧ 尾野益大…16  
新年会のご案内……………17

支部山行計画 11年1月～3月……………17  
図書頒布結果報告……………18  
自然保護行事……………19  
編集後記……………19

参加者が意見交換をしました。  
中国登山の変遷

中国では1955年に登山が正式にスポーツとして取り入れられ、組織的におこなわれるようになり、56年中華全国総工会に登山部門が設けられ、女性を含めた登山者の養成がはじまり、ソ連との合同登山でムスタグ・アタの初登頂やコンクール・チュビエの初登頂がおこなわれました。57年中華全国総工会登山隊がミニヤコンカ登頂。58年には中国登山協会が発足。60年西藏登山隊創立。5月25日王富州・貢布・屈銀華の3名がチョモランマ北稜より初登頂。64年、最後の8000m峰シヤパンマ峰初登頂。75年チョモランマ北稜から再度登頂。世界で2番目の女性登頂者(潘多)誕生。80年、日本山岳会のチョモランマ登山に高所協力員として多くの中国・チベット登山隊員が参加。この時の参加者が88年日本・中国・ネパール三国友好登山隊、90年から92年にかけておこなったナムチャバルワ峰初登頂の主要メンバーとなり、93年から2007年にかけておこなわれたヒマラヤ8000m峰14座登頂の原動力となり

ました。

ちなみに14座は、93年アンナプルナ、ダウラギリ、94年シシヤパンマ、チオオユー、95年ガッシャブルムII、96年マナスル、97年ナンガパルバット、98年カレンチュンジュンガ、ローツェ、99年チョモランマ、2001年ブロードピーク、03年マカル、04年K2、07年ガツシャブルムIで完登しました。14座登頂者には次仁多吉・洛則・辺巴扎西の3人がなっています。世界最高峰チョモランマの登頂者はネパール・米国に続いて多く、その数は1960年から本年5月末までに8回登頂の丹増など複数登頂を含めると延べ人数は301人。そのうち漢族は72人であり、西藏族は223人に及び中国西藏登山隊(C.T.M.T)の隊員は63人、登山学校のメンバーは166人でありヒマラヤ登山の登竜門となっているようです。個人で見るとこれまでに161人が登頂し、そのうち漢族は66人、西藏族は95人です。登山隊メンバー35人、登山学校メンバーが62人で後継者作りが順調に進んでいます。来年には国際登山大会の開催を予定し、さらなる西藏の登山の発展を促

進する機会を作り出そうとしているようです。それを下支えているのがC.T.M.Tの隊員36名(平均年齢35歳と、登山学校無料で60人の生徒が寄宿生活をし、3年間かけて登山技術の研鑽を行う)の存在です。中国では国家体育总局と区・省が共同で登山を推進・展開して、地域の観光業など関連産業の発展を目指していることが伺えます。

変貌するチベット

私が初めてラサに足を踏み入れたのは、1980年日本山岳会によるチョモランマ登山の時です。以来、87・88・90・91・92・95と四季を通じ、東はナムチャバルワ峰から西は吉隆のネパール国境近くまで足を延ばしました。強烈な記憶は、砂塵をあげる未舗装道路とヤクや羊を追う放牧の民、煤けた顔のチベットのすするバター茶の匂い、各地から五体投地でラサに向かう人の群れでした。「神の土地」を象徴するポタラ宮前の住宅は取り払われ、2005年のチベット自治区成立40周年に合わせた改修工事で整備された広大な広場となり、東側の道路の往来には地下道が通じていました。

鉄道開業以降、観光客を当て

込んだ漢族の流入もあって町は一変し、町の西側は漢族の居住区となっており、車のディーラーなどが林立し近代的な建物が立ち並ぶ景観は中国の地方都市と変わりません。キチユ河の中間には高級住宅街も作られ、新聞にも分譲広告が載っていました。一方、チベット族の住居はジョカンの東側に集まっており町を二分した形で、再開発が始まったところではチベット族の転居もおこなわれているようです。中国通信によると、今年1〜7月チベットを訪れた内外の観光客は延べ330万7391人で、観光収入28億7701元、昨年同期と比べると客数は21・9%、収入は29・3%増加したと伝えていました。

中国の国家プロジェクト「西部大開発」のもと、自治区の第11次5ヶ年計画の一環でコンガール空港の改造工事と関連施設の工事や9月末にはラサから西へ280km離れたチベット第2の都市シガツェを結ぶ鉄道工事も始まりました。これからも大きく発展を目指すチベットですが、開発が古くからの伝統と景観や生態系に大きな影響を及ぼさないことを祈っています。

日本山岳会関西支部  
夏の懇談会に出席して

尾崎 進

東チベットカンリガルポ山群  
ロプチン峰初登頂 (KG-2  
6805m)

講師 神戸大学・中国地質大  
学合同登山隊長 井上達夫氏

ヤル・ツアンポー川が流れを  
東から南に変える所謂大屈曲点  
付近から東南に全長280kmに  
渡って広がるカンリガルポ山群  
は6000m級の未踏峰が林立  
する地球上に残された秘境とな  
っているが、ただの一峰もその  
頂を人類に明け渡すことなく今  
日に到っていた。

2009年11月5日、神戸大  
学・中国地質大学(武漢)合同  
崗日嘎布学術登山隊はKG-2  
(6805m)の初登頂に成功  
した。最初に頂上に達したのは  
チベット出身の学生、徳慶欧珠  
(Deqing Ouzhu)と次仁旦塔  
(Ciren Danda)の二人であった。  
チベット出身の学生が故郷の処  
女峰に初登頂するのは快挙であ  
り賞賛に値する。引き続き11月  
7日、日本人、矢崎雅則と近藤

昂一郎の二人が頂上に達した。  
そしてこの山群によくやく初登  
頂時代が訪れた。《日本山岳会  
山岳2010年 カンリガルポ  
山群・ロプチン峰 (KG-2)  
初登頂―神戸大学山岳会 井上  
達男―より》

今年の夏は特に暑い。こんな時  
こそ高い山の話を開かせてもら  
ってこの暑さを忘れたいと家を  
出た。電車は冷房がよく効いて  
いるが地下街は蒸し風呂だった。  
ペットボトルの冷茶を買った売  
店のおばさんと「暑い暑いと言  
ってもしようがないがそれにして  
も暑いですねえ」とお互い顔を  
見合わせてため息をついた。

懇談会は午後6時半、重廣支  
部長の簡潔な挨拶で始まった。  
セミナー室は40名をこす盛況だ  
った。先ず井上隊長(神戸大学  
山岳会々長)は現役の山岳部々  
員6名を紹介された。その中の  
一人ロプチン峰登頂者・近藤昂  
一郎氏はじめ学生のみなさんは  
紅顔、元氣溼刺だった。隊長の  
軽妙な語り口と手馴れたパソコ  
ンの操作で最初に映されたコオ  
ロギには驚かされた、がこれは  
この学術登山隊の表徴だった。  
あとは素晴らしい東チベットの  
山々がつきつきとスクリーンに

紹介され、紺碧の天を突く俊峰  
の数々に感嘆した。隊長はこの  
遠征隊の成功はチームワークの  
たまものと語られた。海外では  
中国登山協会・中国隊員、国内  
では支援の学校、山岳会員に対  
する感謝の心がにじみでて聞い  
ていて爽やかだった。《この快  
挙は日本山岳会2009年の晩  
餐会でも報告され、また201  
0年「山岳」に詳しく発表され  
たことは周知である》。講演が  
終わった隊長は学生支援のため  
「特に皆様には安くするからこ  
の本を買ってほしい」と話され  
たので、本はすぐ売りきれた。

私は「この隊長がいてこの登山  
が成功した」と肌で感じた。そ  
のあとホールでの懇親ビールパ  
ーティーはいつものように楽し  
く時間を忘れた。その夜からじ  
つくり読ませてもらったこの  
「山と人第18号―ロプチン峰初  
登頂―」は立派な報告書だった。  
ここで井上隊長の嬉しい一説を  
紹介させてもらおう。

「登山スタイルが多様化して  
いる現代、神戸大学は伝統的に  
「未知への挑戦」を掲げて「探検  
的登山」を実践して今日に到っ  
ているが、その伝統を維持する  
には地球上の未踏峰は登りつく

されて方針変更を余儀なくされ  
つつある、と考えがちであった。  
そこに一石を投じる今回の学術  
登山隊の成功である。又、この  
ヒマラヤの東で初登頂を目指し  
た登山活動をこれから百年続け  
ても全ての6000m級の未踏  
峰を登り尽くすことは不可能で  
はなかるうか。このたびの登山  
で明らかになったカンリガルポ  
山群東部の6000m級の山々  
は多くが急峻で極めて困難な姿  
かたちをみせている。」「(山と  
人)―ロプチン峰初登頂―カン  
リガルポ山群登山史よりP17  
7・抜粋)。最近、私はヒマラヤ登  
山はもう終わったと考えてきた。

また平井一正先生(前神戸大  
学山岳会会長)の「初登頂―花  
嫁の峰から天帝の峰へ」を読み  
かえした。話は遡って、ちょっ  
と長くなるかもしれないが、こ  
の度の成功に到る端緒・天帝の  
峰クーラカンリ(1989年神  
大初登頂)の一節を掲げさせて  
もらって神戸大学の未知の山々  
への執念を想起したい。

「(1984年10月北京から)帰  
国前夜、宴席で隣に座った史占  
春が、私の耳もとでそっとささ  
やいた。「クーラカンリはむつ  
かしいと言ったが、もう一度検

討してみよう。申請書はクーラカンリを第一、ニエンチンタングラ山を第二候補として出さない。」マオタイの杯を何度も傾けながら、私はかすかな希望を抱いた。テレビとラジオで中国語の勉強をしてきた自分の努力が、少しは報われたおもしろい。(p246粘りの交渉)より)

(1985年11月) 世界中の関係者が秘かに狙っていた目標の二つ(クーラカンリと横断山脈)とも手中にした。是非ともこの目標にふさわしい、神戸大学として誇るに足る隊を組織して、関係者の厚意に応えなければならぬ。おおよそ、一つの事業をなすためには、その事業を完成させるまでに努力する推進者、良き理解者、リーダー、そして組織が必要である。幸いにして、神戸大学は昔から国際交流が盛んであり、また1985年の日本チリ合同パタゴニヤ探検など、登山と探検は活発に行っており、事を起こす下地は十分にある。(p252次々に難関突破)より)

このクーラカンリ峰初登頂からロブチン峰初登頂に到る神戸大学の4半世紀に亘る「未知へ

の情熱一に感嘆するとともに、現今部員不足に悩む大学山岳部・山岳会がこれからの目指すべき一つの登山形態を教示するものであるとずいぶん勉強させてもらった。

おわりに私事で恐縮です。1958年春、キレットから北穂の頂上にでると沈痛の神戸大学山岳部の方に「滝谷のクラック尾根でうちの二人が遭難した」と聞かされた。すぐその一人が関西学生山岳連盟で顔見知りの(お互いに言葉を交わしたことはなかったが...)山内純二さんと知り私の予感的中した。すでに遺体は滝谷になかった。ザイルパーティーの、もうお一人青木秀哉氏は当時、岐阜登高会でご活躍の青木寿一氏の実弟であることを知ったのも最近である。

平成22年度夏季懇談会  
参加者名簿

- |           |      |       |
|-----------|------|-------|
| 新井 浩      | 井上達男 | 岩崎しのぶ |
| 浦上芳啓      | 尾崎 進 | 大津陸郎  |
| 大西康郎      | 斧田一陽 | 柏木宏信  |
| 金井健二      | 金井良碩 | 釘本武昌  |
| 久保和恵      | 黒田記代 | 河野直子  |
| 神戸大学山岳部4名 | 小島一喜 |       |
| 小寺佳美      | 阪下幸一 | 鹿田匡志  |

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 重廣恒夫  | 城 隆嗣  | 先水美智子 |
| 高田 誠  | 田島 汎  | 田中祥介  |
| 辻 和雄  | 戸島泰三郎 | 中谷絹子  |
| 中村久住  | 秦 康夫  | 廣瀬健三  |
| 廣田猛夫  | 前田正彰  | 宗實二郎  |
| 宗實慶子  | 村田かおり | 茂木完治  |
| 山内幸子  | 山田 健  | 山田博利  |
| 山並久次  | 山本光二  | 橋本圭之助 |
| 仕名野完治 | 平井一正  | 西尾俊子  |
- 参加者50名

欠席者の便りから

夜は出かけない事にしています。皆様によろしく。八十六歳となり、それなりに元気でやっています。  
浅野清彦

一昨年頃より関西支部の例会や集会に参加出来なくなりまして。前立腺がんと右、肺がん治療のため京都府立医大病院で入院を繰り返していたからです。幸い両方とも早期発見にて二度とも命拾いをしました。ただ脚力と体力が激減して、とても大阪までは無理となりました。  
阿部恒夫

昨年のドロミテにつづき、今夏もチロルの山旅を楽しみました

た。暑さにめげずに分水嶺山行にも頑張つて参加したいと思っています。  
新本政子

3月から咲き始め、4月、5月に最盛期を迎えた金剛山の春の野草たちも、6月に入りめっきりその数を減じた。これからは又、夏の花が楽しみである。ギンバイソウ、ササユリ、フシグロセンノウ、イワタバコなど。毎年出会える喜びは、今の私には大切なものである。同じ花でも年を追うごとに違った印象を受けるのも嬉しいプレゼントである。  
川田哲二

丁度、ロシア沿岸地方(ウラジオストク・ハバロフスク他)滞在と重なり欠席します。残念。  
清瀬祐司

7月26日、台高の白鬚岳に登つて来ました。頂上には新宮やまびこ会が建てた立派な石碑があり表面には「今西錦司先生一五〇〇山目の山」とあり、裏面には

「一山一峰に偏せず 一党一派に偏せず 錦司書」と刻まれていて感動しました。いい山ですが七十七歳にはハ

ドでした。

**黒田彦彦**

東お多福山のススキ草原保全再生事業も、3年目が間もなく終わります。市民団体・研究者・行政機関が、一つのフィールド活動するこの場を大事にしたいです。平成23年より、第二期が始まります。皆様のご協力を御願ひ申し上げます。**桑田 結**

7月末に足の手術を受ける為入院します。リハビリも含めて3ヶ月位山に行けないと思えます。早くよくなるように頑張つて皆様と交流できる日を楽しみにしています。**阪下悦子**

梅雨入り前の一週間、上高地周辺散策と奥穂高岳登頂をしてきました。天気にも恵まれ、又多様な花々に迎えられる素晴らしい時を過ごせました。仕事をリタイヤして、体も元気だからこそと喜んでる今日この頃です。懇談会の日には南アにいく予定になっていて参加できません。**仁田祐二**

梅雨も明け、夏山の話もあちこちから聞かれる頃になりました。支部山行計画を見るのです

が、なかなか参加できないです。近畿分水嶺にも是非参加したいと思っています。

**滝由喜子**

この夏、学生時代からの友人達に登山に連れて行つてと頼まれ、富士と鹿島槍ヶ岳に登る事になりました。皆、同世代の二十代で山に登つた事は無いけれど、登山への興味はあるらしく。きつかけがないとなかなか山へは行けないので、この登山を機に今後も山登りを楽しんで貰えたらと思います。**兵部智代**

小生、この4月21日から5月12日まで、ネパールのクーンブ地方西部のボートコシ川沿いのアリアからレンジョ・パスを越えてゴークキョ・ピークを登り、念願のエベレストを見てきました。今回のトレッキングは以前行つたトレッキングと違い5400m位の高所まで登りました。周辺の山々は急峻で、その迫力はすごいものでした。**田中外治**

最近は一ヶ月に一度のペースで、韓国の山歩きに出かけています。山行で知り合いになる韓

国の皆さんはとても親切で暖かく、帰国後もメールで連絡を取り合つたりしています。これからは支部例会にも参加させていただきます。ただきたいと思つています。いろいろと教えてくださるようお願いいたします。**山崎 詮**

分水嶺には参加させていただいておりますが、最近はそのままならず残念に思つております。今後はなるべく都合を付けて参加したいと思つております。**山本義博**

## 出席者の便りから

テイシヨウソウをご存知ですか。9月から11月、大きい葉を根元に集め、中心から長い茎を出し、地味な白い花を点々と付けます。宝塚の大峰550m以上に多く生えていました。昭和二十年秋、今はない。六甲、東お多福山700mには立派に咲いているのに。ふと気がつきました。大峰山頂に多くあったエイザンスミレも消滅。

**浅野初子**

久しぶりに知人を案内して御

嶽へ行つてきました。白装束の信者が多い中、神戸女学院の中高生約40名に出くわしました。田の原から山頂に登り、五ノ池小屋泊り、濁河温泉へ抜けるとの事でした。学校登山の動きに感心しました。**新井 浩**

琵琶湖西北の高島トレイル。樵や栃、桂などの巨木に出会える谷や稜線が日本分水嶺沿いに続く。鯖街道や木地師の古道が峠を越えており歴史も楽しめる。6月初旬に瑞々しい若葉の樹木を見たくて木地山峠から桜谷山、駒ヶ岳を廻つた。何度尋ねても新鮮な朽木の山々でした。**井上達男**

先月の近畿分水嶺に参加して新しい発見がありました。自衛隊の空軍の施設、フェンスの網に角をからめ白骨化した雌鹿、もがいて二畳ほどヤブが消えていて、もがき死んだと思えます。普段見られない絶滅種の蘭などを見る事が出来ました。**阪下孝一**

例年のない猛暑ですが、世界中から異変が伝えられています。ヒマラヤ登山を支えてきたカラ

コラムハイウェイは地すべりや洪水で寸断され甚大な被害が出ています。偏西風の蛇行など種々の要因がありそうですが、開発という自然破壊で経済発展を遂げてきた後遺症ではないかと考えるのはうがちすぎでしょうか？

重廣恒夫

去る6月、五年余りのネパール支援NPOの代表役を辞任し幹事に退きました。時間に余裕が出来ますので、向後は但馬ハチ高原の山小屋「ねむの木山荘」の運営に力を入れたいと思っています。同山荘は水ノ山登山の基点に好適です。秋の紅葉狩り登山、冬の樹氷群のスキー登山にご利用ください。寝・燃完備、風呂あります。自炊が建前ですが料理自慢の小屋番がお手伝いいたします。JACの方々には特別の料金サービスも用意しています。お問い合わせください。  
mac-tdk@s5dion.ne.jp

高田 誠

とうとう80の坂を越えました。お蔭様でまだ元気で、昔の仕事仲間のグループのハイキングのリーダーなんかやっています。しかしこの程度ならとも角、体

力の低下は年齢相応で、山靴が重たく感じるようになって来ました。矢張り年齢には争えませぬナア。

田島 汎

本年6月より、大阪府山岳連盟副会長に選ばれました。関西支部の皆様とコミュニケーション・連係プレイをよくしたいと考えています。

中村久住

九州や広島地域の山岳会員の方々の中で、今回の梅雨の被害を受けられた人がおられたのではないかと心配をしております。登山路の被害も大きかったのだと思います。留意して夏山を楽しみましょう。

平林克敏

7月26日、孫二人と富士山に登りました。5月に大阪市立大学山岳会第一次ランタンリルン登山隊遭難者追悼団に参加しました。私が1960年ポストにデオ・チバ峰に登った時のシエラパーサーはガルツェン・ノルプでした。半年後に彼はランタンリルンで遭難したのです。あれから50年経ってBCの墓碑ランタン村の奥都域で法要。法語を捧げ、般若心経を唱えました。ガルツェンはデオ・チバの

時のままの面影。日焼けした口元の白い歯がふつと蘇りました。

宗實慶子

関西支部に入会させていただき早くも一年経過いたしました。諸先輩方の導きにより山の厳しさ、素晴らしさを改めて実感しております。近畿分水嶺踏査、4000山グランプリ等これからもチャレンジしていきたいと思えます。

村田かおり

7月8日、東京国際ブックフェア(東京ビックサイト)に参加しました。岩波書店を始め、多くの出版社。Googleのような

# 支部山行報告

支部山行10・22・23・24  
4000山グランプリ5  
光岳く大根沢山く大無  
間く田代  
山内幸子

情報機関等など。目玉は、5万冊に及ぶ洋書バーゲンです。10冊ほど買いました。山岳書も少しはありました。私も山岳書は2冊ほど買いました。

山田博利

8月4日〜8日、三浦俊宏様夫妻の親孝行に便乗させて頂き、安達太良山と熊野岳へ登りました。オートキャンプ場の調った設備に浦島花子はびっくり！テントサイトに水道電気ガス、温泉、ウォシユレットのトイレ、虫が飛んでこない。訪問者は大きな蟻さんのみ。よろしく。

西尾俊子

が気になるが名鉄バスターミルで集合し便ヶ島へ。

8月12日(木)雨

朝起きるとやはり雨。雨具を着けての樹林帯の登りは暑くてたまらないがさすが2000mを越すと寒くなってくる。易老岳で昼食をとり水場で水を汲み雨で濡れたまま寒さに震えながら光小屋に飛び込む。着替えて暖かいお茶をご馳走になりホッ

とする。何年ぶりかの小屋は新しくパイオトイレができていて快適だった。ゆっくり歩いたので楽に登れたが、明日は予定のアザミ沢のテント場までは無理だろうと言われ大根沢辺り泊になるかもしれないので水をたっぷり持って歩くことになる。

8月13日(金)曇り

ガスの中の光岳を踏み、オオシラビソの原生林の中を歩き、百俣沢の頭から南東に向かう。やせ尾根でウスユキソウらしき花を見ていくつかのピークを越しながら細い尾根を下っていく。腰痛の人が出たのでゆっくり進む。信濃俣ではニコニコ顔で記念撮影。樺沢山を越すと倒木の多い下りになり膝の悪い人には堪える。三角に聳える樺沢ノ頭に登り小さなアップダウンを繰り返して、大根沢山への登りにかかるが標高差440mの大きな登りは明日にしてP1849でテントを張る。夕食時、ナン売り少女の話で盛り上がる。キーマカレー付きナンは山中での合理的な食事になる。夜中小雨が降りペルセウス流星群は見られず。

8月14日(土)曇り

小雨のため雨具をつけて歩きます。岩場ではハーネスをつけ

ザイルで下る。それから大根沢山までの440mの登りは半端ではなかった。岩をつかむ急な登り、崩れの難所を進む。体調を壊す人が増えるがゆっくり登り、広いが展望のきかない大根沢山に到着。さすが深南部の大きくでんと構えている山でそうやすやすとはピークを踏ませてくれなかった。崩壊地を見ながらやせ尾根を通り小根沢山からアザミ沢の谷にやっと着き水場で水を汲む。各自4ℓの水を増やし、急にずしりと重くなったザックを担ぐと足もとがフラフラする。まだ時間は早い。今日の行動はここまでにして食料を減らし荷を軽くして明日頑張りとういうリーダーの声でコルから少し上がった場所でテントを張り明日への英気を養うことになる。

8月15日(日)曇り

今日もハーネスをつけ暗いうちから歩き出す。ササ原の三方嶺でゆっくり休憩した後、計画通り大無間に向かう。大無間から小無間まではアップダウンのない長い尾根道で歩きやすいが、ここから小屋までの長かったところのうえなし。このコースは昔元気な時に登っているが当時

は鋸歯も難なく歩いたのでしんどかった記憶は全く無い。すぐに着くと思っていたのにいくつもピークを越さなければならなかった。地図による大きなピークは3つだが、小ピークが多く何度小さなコブを越したことがある。やっと小屋の前に出た時は本当にホッとした。思わぬ時間がかかりこれから田代に下りても今日中に帰宅できないので今夜はここで泊まることになる。残りの食料と水で食事を済ませ単独行の女性の邪魔にならないように早々と休む。

8月16日(月)晴れ

やっと晴れの朝を迎える。歩き始めてすぐに富士山が顔を見せてくれた。下りはしつかりした登山道なので2時間余りで諏



1等三角点大無間山にて 撮影 重廣恒夫

訪神社に到着。静岡まで行くタクシーを待つ間、田代温泉でゆっくり汗を流しビールで乾杯する。それぞれが何らかの故障を抱えながらも何とか予定通り目的を果たせたことを全員で喜ぶ。本当にお疲れ様。

さすが南ア深南部は道を探しながら歩く奥深い山だったがトラブルにもめげず予定通り歩いたのは足並みがそろっていたこと、お互いを尊重しあう山の仲間であったからだろう。また、自分の体力の衰えを自覚して新たに真摯に山と向き合わねばならないと思った山行でもあった。

【コースタイム】

- 12日 聖光小屋発5・20 | 易老渡6・00 | 面平8・40 | 易老岳12・26 | 13・11 | 静岡高平水場16・25 | ゼンジガ原16・45 | 光小屋17・05
- 13日 光小屋発5・05 | 光岳5・30 | 百俣沢の頭7・05 | 信濃俣11・47 | 12・20 | 樺沢山12・43 | 樺沢の頭14・28 | P1849 | 18・15 | テント泊
- 14日 発5・25 | 大根沢山9・39 | 54 | 小根沢山11・03 | アザミ沢の谷12・10 | 50 | P1930 | 13・30 | テント泊
- 15日 発4・40 | 三方嶺7・25

8・00—大無間山10・12—中無間山12・02—小無間山13・29—小無間小屋17・40  
16日 三角点4・53—雷段6・36—諏訪神社7・19—35—田代温泉8・00

【参加者】

重廣恒夫 久保和恵 黒田記代 村田かおり 山内幸子 (会員外) 秋枝秀實 佐藤信次郎 計7名

支部山行10—28・29

4000山グランプリ6

「タンポから雷倉」

村田かおり

9月24日(金)

前夜は岐阜大垣泊。朝7・15発の1両編成のかわいいレールバス樽見鉄道にて終点樽見駅へ。駅からはジャンボタクシーでのりこし峠へと向かうが、途中落石による通行止めのため約2kmを歩くこととなる。露営道具に水5ℓが肩にずしりと重く、ウォーミングアップには少々ハードな道のりだった。

峠で既に予定の時間を2時間オーバーしていた。小休止の後、一路西台山へと急ぐ。登山道は

途中笹をかき分けるところもあるが、道のコンディションはよく歩きやすい。秋らしい気温の中だが、汗が瞬間に吹き出て何度もタオルでぬぐいながら歩を進める。ゆるやかなアップダウンの後、P856を過ぎた辺りから少しづつ遅れ勝ちとなり、西台山手前の岩の登りでは重荷に青息吐息である。「大滝の汗やな」と支部長に笑われながら西台山に到着。展望はなくここで昼食を摂る。

西台山からなだらかな樹林帯を西へ進むと分岐。道なりに逆方向に出そうになるが、ここは地図を確認し北へ。P932を過ぎいよいよタンポまでの登りへ。猪のヌタ場を横目に過ぎると目の前にタンポが現れる。噴き出る汗を抑えながら最後の登りを進むと堂々の貫禄、一等三角点(点名「月夜谷山」)が待っていてくれた。山頂は眺望も開けて100度方向に恵那山、180度方向には以前登った藤原岳、その手前に池田山が確認出来る。パノラマを楽しみ行程表を確認すると、約1時間の遅れ。稜線伝いの藪漕ぎは時間がかかり過ぎるので一旦林道に下ることとした。タンポより北西

に繋がる稜線からシロモジだらけの道を進み、グランプリ恒例の藪漕ぎを少々交えながら林道へと合流。ここからは歩きやすい林道を北へとピッチを上げる。P955を巻き更に500m北上した999mの林道がこの日の幕営場所となった。

9月25日(土) 晴れ

昨夜予測されていた雨にも合

わず天候は晴れ。林道より稜線

へ上がり最初のピークへ。道は

昨日と変わりブナが多く気持ち

が安らぐ。約1kmで再び林道に

合流。ブナの他、ウリハダカエ

デ・クロモジ・ハウチワカエデ・

馬酔木などに目を楽しませなが

らしばしの休憩を取る。ここよ

り雷倉までは笹藪をかき分けな

がらの登りだが、荷が軽くなり

昨日より足取りも軽く約40分

山頂に到着。雷倉は東の根尾村

側では「かみなりくら」、西の

藤橋・久瀬村側では「らいくら」

と呼び名が違うようだ。二等三

角点、点名「矢谷」は集落名を

当てたものらしい。眺望を期待

したが曇りで何も見えない。記

念撮影の後いよいよ長い下りへ。

なだらかな稜線を300m進み、

ここからは藪をかき分けながらP954へ向けての急な下り。



雷倉にて

小休止の後、廃道のような林道に合流。すすきや笹をかき分けながら進むと今度は岩がごろごろと出現。「雨でなくて良かったね」と支部長の声。石灰岩のため濡れると滑りやすいのだそう。急降下の登山道を慎重に下る。途中、ヤブレガサ・トリカブト・カニコウモリなど教えてもらおうが気もそぞろである。杉木立が現れP547に到着。30分程で中又谷に合流し八谷に出た。八谷の集会所前でスパッツを外すと蛭を1匹発見。最後の沢筋でお持ち帰りしたようだ。全員の蛭チェックの後、うすずみ温泉で汗を流し帰路につく。

【コースタイム】

24日 のりこし峠10・58—西台山11・53—12・18—タンポ13・



51〜14・03―林道14・35―幕営場所(999m)16・32  
 25日 幕営場所5・54―雷倉7・50―8・15―P9548・54―林道9・06―P5479・47―中又谷10・30―八谷10・47  
**【参加者】**  
 重廣恒夫 秋枝秀實 村田かおり 山内幸子 (会員外) 青木昭 後藤健治 以上計8名

支部山行10―20・21

近畿分水嶺踏査(第16回)

③1・③2

「青山峠―航空自衛隊駐屯基地―笠取山―長野峠」

廣田猛夫

昨年8月以来一年振りに近畿分水嶺踏査に復帰、その最初の山行が50年程前に訪れた青山高原でその山容の変貌に驚かされた山行であった。

7月24日

早朝に西宮北口駅をマイクロバスで発ち、近鉄八木駅、名張駅に立ち寄り総勢20名が青山高原保健休養地に予定通り到着。

恒例の柔軟体操を済ませて青山高原へ向け出発。前田山、青

山峠を越えると一旦ドライブウェイを横切り、山道を辿ると見覚えのある別荘地が現れる。別荘地の右手の尾根上に沿った道を登ると、長い急坂が現れ、登り切ると再びドライブウェイと合流地点に4等三角点があり、ここで各自日陰を探し昼食タイム。昼食後、ドライブウェイとほぼ並行する東海自然歩道の高原の道を進むと髻山(二等△756m)に到着。山頂からの眺望は、広大で北には明日登るレダーサイトのある笠取山と背後に伊賀と鈴鹿の山々、東は伊勢湾、南は曾爾の山々、西は信楽の山々と素晴らしい景観だ。

山頂をあとに一番青山高原らしい景色の中を行くと風力発電の風車がニヨキニヨキと姿を現してくるのはどうも頂けない。途中P802の三角点(4等)を確認しマイクロバスの待つ航空自衛隊笠取山分屯基地に到着。バスで猪の倉温泉に立ち寄り一日の山行の汗を流し、青山高原保健休養地のキャンプサイトで夕食の後、バンガローとテントに分宿し就寝。

7月25日

快適なキャンプサイトを予定より早目に出発、前日の終了地

点の航空自衛隊笠取山分屯基地に到着。柔軟体操の後、重廣支部長より「今日は予定よりも早く出発できるので予定地は伊賀越を目指す」と説明があり出発。出発して間もなく、笠取山山頂へと続く航空自衛隊レダーサイトの入口に到着。支部長が道路の通行許可申請を出して頂いている事もあり敷地内に入り込んだ途端にマイクで退去を命ぜられる。車で駆けつけた自衛隊員との交渉も埒が明かず、自衛隊の道路を諦め迂回路(本来の登山道)をとり笠取山へと向かう。笠取山の山頂は自衛隊の施設のフェンスに阻まれ、レダーサイトをバックに写真を撮り、レダーサイト横の東海自然歩道の道標の所で小休止を取る。

ここからは楽しい尾根歩きが出来ると期待したことが大きな誤りであることを思い知らされる。尾根には地図にも載っていない風車と工事用の道路が尾根の中腹に迷路のように造られている。遂に自然歩道の尾根道が工事用道路のコンクリート壁に阻まれ降り口が見当たらない。コンクリート壁が一番短い箇所

に用意万端の支部長持参のザイルを張り全員が無事道路に下り

る。昼食の後、出発したが新設の風車と工事用道路が複雑に入組む分水嶺の尾根道探しに予定外の時間を食い、最早「伊賀越」は無理となりR163を目指して下山。迎えのマイクロバスに乗り途中温泉で汗を流し帰途に着いた。

久し振りの青山高原は、風車建設による自然破壊の凄まじさと、不慮の事態に備え常にザイル等を携行される支部長の慎重さ等々、色々考えさせられた山行だった。

【コースタイム】

24日 青山高原保険保養地10・05―青山峠12・20―昼食12・50―P756二等△13・20―P8



林立する風車を背に奥馬野 撮影 重廣恒夫

02四等△15・07―15・50航空  
 自衛隊笠取山分屯基地16・07  
 25日 青山高原保養地5・40―  
 5・50航空自衛隊分屯基地6・  
 20―6・40自衛隊レーダーサイ  
 ト入口(交渉)7・00―迂回路P  
 631道標7・20―8・05笠取  
 山―レーダーサイト横東海自然  
 歩道道標(休憩)8・20―11・20  
 コンクリート壁下降12・10―  
 12・20昼食12・50―長野峠上部  
 13・40―旧長野峠14・20―R1  
 63バス合流点14・50

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 岩崎しのぶ  
 河野直子(25日のみ) 久保和恵  
 黒田記代 阪下幸一 佐野加代子  
 辻和雄 廣田猛夫 松村文子  
 溝俣美恵 村田かおり 茂木完治  
 山本義博 山内幸子  
 (会員外5名) 秋枝秀実 上村規子  
 黒岩敦子 後藤健治 吉田計21名  
 かおり



支部山行10―25・26  
 近畿分水嶺踏査(第17回)  
 ③③・③④  
 「長野峠―伊賀越―蝙蝠峠」  
 後藤健治

今回は歴史古い伊賀街道の峠の一つ、長野峠から出発し、途中、伊賀越、布引山地を經由しながら蝙蝠峠まで進むというコース。参加者は9名(二日目10名)と先月と比べて約半分の人数での踏査となった。

8月21日 晴

長野峠を11時にスタート。まだまだ残暑の厳しい中、歩けばすぐに汗が吹き出る。歩き始めて2時間半後、今日の楽しみの一つ伊賀越にさしかかる。本能寺の変に際し徳川家康が忍び歩いた場所を、約400年後に自分も歩いているかと思うと感慨深い。ふと見上げたら、鹿が2匹、斜面を駆け上がって行く。現在の峠は一車線の幅員でこぢんまりとした場所。周囲は木々が覆い茂っていて見晴らしも無い。しかし往時はこれが幹線道路だったのだろう、お地藏さんの前で一休みしながら思い

を馳せる。歩きだしてもおしゃべりは続く。今回の踏査メンバーに歴史がいて、しきりに荒木又右衛門と言っている。俳優ですかと尋ねたら、えらく驚かれました。自分の不勉強に汗顔の至り。今度、三船敏郎を見ても勉強します。閑話休題。

夏の山行は常に暑さとの戦いとなる。かんかん照りではないものの、湿度は高くして風も無く、流れる汗がとまらない。伊賀越から布引山地までの道のりでは、等高線はあまり立て込んでいない。急峻な登りはないものの、地図とコンパス片手に丁寧に分水嶺を辿って行く。P613、P658と順調に歩き続け、高圧線を過ぎたP720の少し北で本日の踏査終了18時。まだ日

が残る中、島の川に沿って下山途中、地図には載っていない滝に阻まれるも、少し登り返してトラバースし、無事、待機組と合流する、19時。さすがに沢筋では夜の帳が下りてきて、移動のバスから見た月は、葉月の綺麗な十三夜でした。

8月22日(日) 晴

朝7時、前日の下山口からスタート。ゆっくりと登り返す。アブがやたらと体にまとわりつ

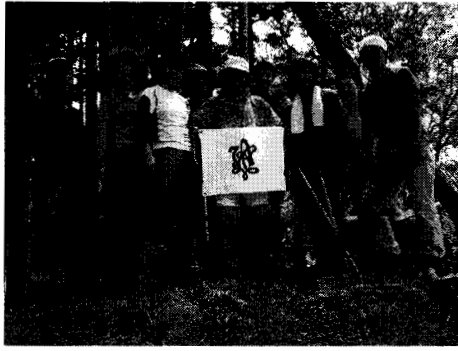
いてブンブンとうるさい。昨晚のアルコールがまだ抜けずに匂っていて、それが虫を呼んでいるんじゃないかと誰かが言っている。分水嶺踏査では、仲間と過ごす夜の時間もまた楽しい。昨晚の焼酎は美味かったなどと思いつながら登る。約1時間後、稜線上に到着。引き続き分水嶺を辿る。布引山地の稜線上でも、等高線は立て込んでいない。細かい上下を繰り返しながら歩く。途中、錫杖ヶ岳を右手に望む。薄く霞んでいたが、山頂がピンと尖った綺麗な山。

P727北付近の分水嶺を歩いていたら、先頭を歩くCLが「おつ」と声を上げる。こういうときは、だいたい生き物に遭遇したときだ。鹿であったり蛇であったりするのだが、(そういえば前日はマムシがいたな。)今度も鹿だろうかと前を見やりながら歩いていると「人がいる」と言う。こんな山奥を歩くのだなんて、物好きな人がいるものだと、にわかには信じがたかったが、次の小ピークに着いたら確かに男性が休憩していた。聞けば三重県の地元の人らしく、前述の錫杖ヶ岳から歩いてきたらしい。目的地が我々と同じ大山田温泉

とのことなので(もとい蝙蝠峠)、以後は行動をともしした。

相変わらず暑さは厳しく、休憩毎に冷たい飲料や果物等をメジャーでこまめに回す。しかし今日は風が少しあり、また午前中とあって前日に比べると少しましな感じもある。P788への急登をこなし、P752、高圧線を越えれば蝙蝠峠が見えてきた。13時半と少し早めの踏査終了。ここから亀山市、クールダウンの体操をしながら、来月はここからスタートだなと気を引き締める。

重廣支部長にお声がけを頂いて、会員外として分水嶺踏査に参加させて頂いてから6ヶ月になります。六甲山しか登ったこ



初めて出会った登山者と一緒に P689にて 撮影 重廣恒夫

との無い山歴2年の若輩者に、貴重な体験をさせて下さる関西支部の皆様には、感謝の気持ちで一杯です。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

【コースタイム】

21日 長野峠11・20―平木北西峰12・40―伊賀越13・20―分水嶺離脱点17・25―林道18・54―名阪森林パーク泊  
22日 岩谷林道6・40―分水嶺到達点8・00―P788昼食11・15―鉄塔13・00―蝙蝠峠13・30

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 久保和恵  
黒田記代 阪下幸一 佐野加代子 村田かおり 山内幸子  
(会員外) 後藤健治 上村規子  
(22日のみ) 以上計10名

支部山行10―35

ゆるやか山行

「東山36峰3」

神明山から吉田山

西尾俊子

10月5日(火) 晴後曇

京都市地下鉄東西線、蹴上駅からウエスティン都ホテルを右

手に東へ疎水に沿ってインクラインの名残を眺めながら、京都府知事の北垣国道氏、田辺朔朗氏の「疎水計画」を、若い人を活用された明治の人は偉かったと各々の思いを話し、橋を渡り日向大神宮の横を登る。市街地の近くにこんな静かな山道、苔が生えていて滑りそう。神明山(218・2m)へ。大日山(150m)―七福思案処(七ツ辻)

から南禅寺へ境内の行場の滝の上を通り、南禅寺山(197・4m)へ、大休止。楽しみの昼食。記念撮影。若王子山(183m)から降り、同志社の新島襄先生ご夫妻のお墓へ参拝して石段を下り、若王子神社から哲学の道を大豊神社へ。椿が峰(132m)へ。標高差50m足らず、簡単に登れると思った。「朝は猿夜は猪」の注意書、猪よけの電線を跨ぎ、急な所を登る。舞茸をゲット。淡い匂いがしていた。踏跡と赤テープを辿り、倒木、枯枝、落葉、細い道のトラバース。面白かったが下山に滑りそうで手間取った。皆に待っていただいた。

望翁の筆跡)があった。金戒光明寺へ参り、真如堂から宗忠神社―吉田山(105・12m)から北へ下り、百万遍を通り京阪電鉄出町柳駅へ。

【コースタイム】

蹴上発10・03―神明山10・55―南禅寺山12・22―若王子山13・00―椿ヶ峰14・38―紫雲山15・30―吉田山16・05―出町柳16・50

【参加者】

久保和恵 金井健二 阪下幸一 戸島泰三郎 中島隆 秦康夫 廣瀬健三 山田博利 西尾俊子 (会員外) 岐部明弘 計10名

第14回森の勉強会

西大台の森林 報告

芹田一陽

関西・京都・東海各支部自然保護委員会共催の第14回森の勉強会は、関西支部の担当で10月16日(土)〜17日(日)に、奈良県上北山村31名(講師3名含む)の参加を得て開催しました。千葉・首都圏・静岡からの参加もあり、講話と現地での自然観察を楽しむ有意義な勉強会となりました。日本で最初の利用調整地区に

指定された「吉野熊野国立公園の西大台地区」に立入するには、認定申請書を指定認定機関の上北山村商工会に提出する必要がある、利用集中期土日祝日100名以下、1団体10人以下の制限があるので、100人枠残り一杯の33人を仮予約して、参加者の調整をして締切日を気にしながら代表者3名の申請者名簿を作成し、手数料1人1000円を納めて手続きを済ませる。

講師には、「西大台利用調整地区利用適正化計画検討協議会」で面識のある龍谷大学理工学部准教授横田岳人、環境省吉野自然保護官濱名功太郎、山岳ガイドクラブ北山いこら代表鎌田誠明の各氏にお願いする。皆様には快く引き受けていただき感謝申し上げます。横田氏には、冷温帯の森林―大台ヶ原の森林の生態―について講演していただき、濱名功太郎氏には、生物多様性の保全と持続可能な利用について―吉野熊野国立公園をとおして―と題して、時期を得た生物多様性の話と吉野熊野国立公園や西大台についての話をしていた。

翌日は、両氏と鎌田氏にお願いして、3班に分かれて紅葉の

始まった西大台をフィールドに自然観察をする。例年より紅葉が遅れていたのが残念であったが、講師の方々の豊富な知見と熱心な話に満足して、無事勉強会を終えることが出来た。貴重なオオダイガハラサンショウウオを見付けた班もあり、参加者には喜んでいただけたものと思

山岳講演会

「小島烏水に学ぶもの」について報告

尾野益大

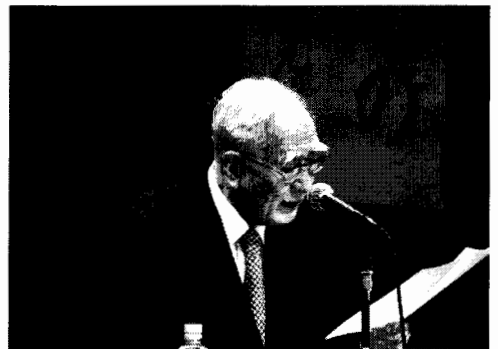
います。なお、次回は、東海支部の担当で日本で最初にFSC森林認証制度の認証を受けた尾鷲林業の「速水林業」での勉強会が検討されています。  
 【関西支部参加者】  
 阪下幸一 秦康夫 辻和雄 松村文子 斧田一陽（16日のみ）  
 横谷好則 中谷絹子

日本山岳会関西支部の四国在住者で作る四国同好会が10月17日、徳島市内の文化の森21世紀館で講演会「小島烏水に学ぶもの」を開いた。講師は烏水研究の第一人者である作家・近藤信行氏（元理事・評議員）。会員や一般登山愛好家約85人は、近藤氏が語る四国出身の烏水の生い立ちや烏水が日本で初めて近代アルピニズムを広めるに至った経緯、登山だけに収まらない彼の幅広い功績について耳を傾け、熱心にメモをとったり写真を撮ったりしていた。

て近藤氏は、誕生地は現在の香川県高松市で2歳で東京に出たことを紹介。「故郷については母から聞いた記憶しかなかった。父親についてはあまり語らなかった」と語った。「烏水が生まれた高松藩は明治維新後、佐幕にいたため好遇されなかった。烏水の家族は東京から横浜に移り住み、烏水は横浜商業学校に通った。一家は明治政府に受け入れられる存在でなく、いろいろな苦勞を味わうことになった」と続けた。

われ始めた。滝沢秋暁から鶴の真似をする烏に似ているといわれたことに由来する」と紹介。烏水が文壇で注目され活躍がめざましくなった理由として、樋口一葉が亡くなった直後いち早く「一葉女史」をまとめた点を挙げた。「一葉研究の中で烏水の業績が見逃されている」ことも指摘した。

烏水ら明治初年に生まれた人が活躍した時代は、日本が近代化し街道、鉄道を整備し未知なるものを求める時代だったことを指摘し、古いものに学びながら仕事をしながら生き、文学も面白くなっていった。烏水はそう



山岳講演会 撮影 中島 隆

した時代に生まれた」と解説し「文学評論、社会評論、紀行文などあらゆる点で烏水は仕事をしてきた」と高く評価した。烏水が銀行員としてアメリカ西海岸に滞在中、日本から国外に流出した文化的財産を収集していたことにも触れた。

近藤氏は、烏水が山に目覚めたきっかけとして旅があったことに着目。烏水の最初の著書「扇頭小景」を手に掲げ、この本に烏水が東京立川から多摩川沿いを歩いて甲府に入り、富士川を下って東海道に出て帰った紀行文が綴られている、と説明。「歩くことよって発見したものが財産になっている。車に乗って通るより重要だったことを教えてくれる。味がある本だ」と讚え「烏水の紀行文を考えると、幸田露伴が影響している。露伴は明治20年代から物書きを始め博学で読書家。物事を見るのに極めて精緻。烏水はその露伴の紀行文に憧れ影響を受けた」と話した。露伴にならって烏水が中山道を歩き、飛騨山脈の大きな姿や立山に向かうときに越中の山々を偶然発見した、と持論を展開した。

さらに烏水が登山家として活

躍する背景について、近藤氏は「山登りはまだまだ未知未開の分野だった」と表現。明治27年に志賀重昂が著した「日本風景論」の影響を受け、旅としての漂泊を続ける中で自分に気付き高山を選んでいった、と述べ、烏水が最初に発見した山は乗鞍岳で、乗鞍岳に登って槍ヶ岳を発見したことを明らかにした。

その上で近藤氏自身が2度わたって烏水が辿った槍ヶ岳登山ルートを紹介した。そして「当時は山を巡っていた探検時代にふさわしい風潮があった。ガイド本はなく、日本風景論も役に立たなかった。自分の目で確かめて記録し、後世に残すことが大切だった」と近藤氏は強調した。加えて烏水の「山を讚する文」では山を伝える意識が色濃くなる様子が分かる、と分析した。

また烏水が当時、年に1回2週間大きな旅行をしていたことを取り上げ「登山は坊ちゃまのものだった。他の人が登山をすることは普通の世界からはみ出し者になる」と話した。続いて現代の登山の風潮について「何も感じないで登る人がいるという嘆かわしい状況もある」と疑

問を投げかけた。

近藤氏は最後に「烏水は未知への憧れをもって活動した。彼にとつて文学、芸術、山歩きは余暇だったかもしれないが、しかしその中にプロフェッショナルなテーマを見いだした。大いに学ぶべきことがある」と締めくくった。

講演会の冒頭、近藤氏は四国との数々の縁についても詳しく紹介。昭和34、35年、愛媛の八幡浜から松山・今治市を訪れ、美空ひばりさんの取材で訪れたのが最初だった。徳島市の象徴・眉山にロープウエーで登った経験では「裾野に瀬戸内寂聴さんの生家があることを知った。彼女がまだ新人のころだった。海のものとも山のものとも分からなかった。集まりで同席した際には彼女はよく阿波踊りを踊っていた」と振り返った。また、香川県の金比羅宮に北原白秋が作った山の唄「守れ権現 夜明けよ霧よ」から始まる歌碑があることに触れ「同じ歌を部歌に用いた慶応大学山岳部と金比羅宮とがどういう関係があるのか長年興味を持っている。三田幸夫さんも由来は知らなかった」と話した。

さらに愛媛県松山市の登山家・北川淳一郎氏の晩年の随筆集「四国山岳夜話」を手に持ち、北川氏が「山格」という言葉を生んだ人であることを詳らかにし、日本百名山の著者・深田久弥が使っていた「山格」という言葉が深田氏の造語ではなく、北川氏の造語であったことを指摘した上で近藤氏は「深田氏は聞いた言葉を作品にすぐ取り込むことが得意だった」と語った。近藤氏は徳島に来る際、バスから眺めた四国一の大河・吉野川の印象について「大きな川だ。上流の深い山を思い、祖谷の静かなたたずまいに思いが巡った」と感慨深そうに話した。



北原白秋の碑の前に立つ近藤先生(左端)と会員

この講演会に先立ち、関西支部長の重廣恒夫氏の挨拶があったほか、愛媛県出身の写真家・白川義員氏と香川県在住の三谷統一郎氏から送られたメッセー  
ジが読み上げられた。重廣氏はエベレスト北壁世界初登頂・K2日本人初登頂などの実績を持つ登山家。白川氏は全米写真家協会最高写真家賞・日本芸術大賞・紫綬褒章などの受賞者で、世界百名山「南極大陸」の著者としても知られ、三谷氏はヒマラヤ八千m峰を6座登っていることである。

講演会の翌日には、近藤氏と会員・一般参加者計18人が小島烏水ゆかりの香川県内を散策。午前中、烏水が生まれた高松市番町と烏水の先祖が務めていた国史跡「高松城跡」、高松藩の庭として知られる国特別名勝「栗林公園」を観光見学した。午後には金比羅宮に足を運び、長い階段を経て北原白秋の山の唄を刻んだ歌碑を見学した。歌碑を見ると「来て良かった」と何度か感想を漏らし、石碑を手でさすりながら周りを歩いてきた。ただ、石碑は金比羅宮が建てたもので慶応大学山岳部と

は関係がないことが分かった。徳島に入った際、吉野川の上流に思いを馳せた近藤氏は、さらに翌日、祖谷渓谷を訪ね、シ

## 第二十二回 藤木祭

野村

ラクチカズラで編んだ「祖谷のかずら橋」と断崖に挟まれた峡谷「大歩危・小歩危」の景勝地を楽しんだ。

今夏の平均気温は過去最高で9月も記録的な残暑だったが、藤木九三への山の神の気配りか当日はさすがに登山日和となった。

参加者は約50名で、コースは森稻荷神社から宮川沿いに魚屋道を登り、蛙岩、風吹岩を経て、高座の滝を下るもの。

宮川沿いの登りは、江戸時代にできた深江から有馬に魚を運ぶ道で、静寂だが直登で、同行の方から、当時の魚を運ぶ大八車の話からホンダのクラブを槍ヶ岳山頂まで上げた話やロックガーデンの岩場を素手で登った話を伺った。

風吹岩では空が澄み切っていたので、金剛山だけでなく大峰山の山並みもはっきり見ることができた。昼食は、高座の滝すぐ上の砂

防ダムでできた河原で取った。

猪を良く見かける所で、子供二頭が餌をもらいに現れたが、人と仲良くする習性をつけて立派に育ってほしいものだ。

また、昭和38年（今年で47周年）のレリーフ除幕式のことを伺い、井上好三郎氏が司会で、津田周二氏、水野政博氏、佐藤久一郎氏、小島栄氏、富田碎花氏、武内重雄氏等の挨拶や祝辞を、当時幼かった私も伺っていたことが分かった。

藤木祭は、兵庫県山岳連盟森川副会長の進行で、日本山岳会関西支部金井副支部長、山中芦屋市長の挨拶に続き、今回はリビート山中氏の、藤木九三とゆかりのある「加藤文太郎の歌」等の山の歌のミニコンサートが行われた。続いて、私の叔母の藤木摩耶

子の藤木九三作の短歌の朗詠の後、伯父の藤木高嶺より、秩父宮殿下がロッククライミングクラブRCCの為に藤木九三の書いた「岩登り術」がきっかけで、大正15年にマッターホルンに13名のパーティーで登頂された時のエピソードの紹介があった。

藤木九三の本家は、福知山の創業延享3年（1746）の菓種屋で、藤木家十一代目の方の挨拶を頂いた。また、福知山市文化財保護審議会委員長で藤木九三の研究家の山口正世司先生から、今年発見された中学在学中に初めて発表されたとみられる詩集「音無瀬」（ペンネーム藤木紫蔭の新作詩の詩集）の紹介があり、後の山岳に関する詩や岩登りに関する著書に繋がったと思われる。

挨拶やお話の終わった所で、アシヤユースコーラスの歌に続いて、雪山賛歌、赤とんぼを皆で歌った後、大阪府山岳連盟山並会長の閉会の挨拶があり、登山の発展と安全で元気に山を登れることを願っての乾杯を行ない閉会した。

若い頃から登山を始めるきっかけとなるよう、藤木祭にっとう山仲間の先輩の方々も、子供

さんやお孫さんを藤木祭に連れ出され、ロックガーデンを足がかりにして、山を愛する若者が増えていくことを願っている。

第22回藤木祭 会計報告

平成22年9月26日(日)

【収入の部】

藤木高嶺氏より

1万円

(拠出金)

兵庫県山岳連盟

4万円

大阪府山岳連盟

4万円

日本山岳会関西支部

4万円

合計

13万円

前期繰越金

10万9471円

総合計

23万9471円

【支出の部】

コーラス御礼

2万円

演者謝礼

2万円

印刷代

1万6800円

送料@740×2

1480円

コピー代@10×120

1200円

切手代 報道5社

400円

スピーカーレンタル料

400円

@3千円×3年分

9000円

大谷茶屋支払

2万9560円

大谷茶屋御礼

1万円

保険料@40×47

1880円

雑費 ポリグリーンロープ他

2667円

合計

11万2987円

次期繰越金

12万6484円

会計報告

久保和恵

第3回委員会議事録

2010年9月22日(水)

(社)日本山岳会関西支部

大阪セルロイド会館3F会議室

参加者 重廣 金井良 辻

宗實 金井健 中島 阪下

先水 斧田 田中 松波

小寺 山内 井上 茂木

野口 釘本 岩崎 加藤

山本 久保 以上21名

司会進行 金井良

支部長コメント

1 支部長会議報告

①各プロジェクト報告資料による説明(「山」「HP」参照)

②森づくり活動実施状況調査他連絡事項説明

2 全国支部懇談会東京多摩支部の報告・支部編集者会議・支部活性化委員会について

3 名誉会員の推薦について

4 行事案内

・関西支部四国同好会講演会

10/17(日)

・北九州支部創立10周年

30(土)・31(日)

・東九州支部創立50周年

11/6(土)・7(日)

・エベレスト登頂40周年記念

ヒマラヤトレッキング

・全国支部懇談会 平成23年10月15日(土)・16日(日) 宮城支部

5 その他

・日韓友好岳人交流会 10/29(金) 19時~21時

議事

1 各部会報告と予定

総務委員会

・夏期懇談会: 8/25(水) 44名参加

・藤木祭9月26日(日) について詳細打ち合わせ

・東九州支部50周年: 11/6・7日 大分市について

・「山の日」イベント

著者と語る会(大阪府立中央図書館) 11/13

・「孫と一緒にハイキング」(星田園地) 11/27

・会計: 自然保護他本部活動の参加費について審議

会旗II中1、小2枚届く

その他

・日山協から表彰推薦依頼

山行委員会

・報告(7・8・9月)

近畿分水嶺踏査

4000グランプリ

ゆるやか山行

その他山行について

予定(10月・12月)

※支部報9月号に掲載 自然保護委員会 報告(7・8・9月)

・やまみち保全活動・植物観察

について 予定(10月・12月)

※支部報9月号に掲載

・関西支部森づくり活動: 取組

みの経過報告

・森の勉強会 西大台10/16

17

・著者と語る会11/13 13・30

大阪府立中央図書館 講演

「未知の世界に挑んだ50年」:

「初登頂」著者 平井一正氏

支部蔵書の処理 リスト支部

報に同封 申込締切り9月末

日

支部報委員会

・編集者会議報告 全国支部懇

談会(多摩)で開催 26支部

参加による意見交換

広報委員会

・HPの見直し検討 関係者で

打ち合わせ予定。レベル合わ

せは総務委員会で行い、方針

を打ち出す。

・岳連 10/24 生駒チャレン

ジ登山について

2 その他

・新入会員 前田英明・上田裕

一 2名

# 小島烏水と四国

## ⑧ 牧野富太郎

尾野益大

日本の植物分類学の草分けとして知られる牧野富太郎は、小島烏水と同じ四国の地に生を受け明治、大正、昭和の3時代を生きた。烏水が誕生する11年前の1862（文久2）年4月24日、現在の高知県佐川町で産声を上げた。

烏水が著した「アルピニストの手記」に、牧野富太郎について触れた文がある。「…牧野博士は横浜で知っている。横浜には牧野先生を仰いで植物学の实地指導を受けた若い人たちの会があった」と。その会は1909（明治42）年10月に創立した「横浜植物会」と考えられる。烏水が住んでいた西戸部の西戸部中学校で集会をしたり、横浜周辺で植物調査などをしていくことが富太郎の日記で分かる。烏水もそうした集まりに顔を出していたのだろうか。

また、烏水は富太郎の講話に耳を傾けた思い出として「神奈川県第一中学校教室で高山植物に関する講話を聴いて、駆け足で

速記まがいの鉛筆を動かしたことがあった」と書き、その時の草稿について「探せば出てくるかもしれないが、先生の校閲をわずらわせる勇気もない」と吐露している。

烏水が高山植物に強い関心を持っていたことは、「エッセイ」或一冊の古本」を読んでも分かる。その中には、ウォルター・ウェ

ー著「高山植物手引草」を例に挙げ、いかに感動したかについて記している。日本で牧野富太郎と三好学共著の「日本高山植物図譜」初版本が出た1906（明治39）年より古い本のため、烏水は「シユローターの本によつて高山植物なるものの美しさを教えられた」と書き残した。

その後「日本高山植物図譜」の2巻目が出たときには、烏水は当時の唯一の権威書だったと指摘。「写生書だけに生動の芸術味が加わって19世紀前半の欧州アルプス山岳図書に見る如き、時代色と学術と工芸美の相伴し

た合奏を見た」と賞賛したほどだ。

烏水は富太郎については知っていたが三好は知らなかったという。三好学は東大教授でドイツ留学中に本場のアルプスに親しみ、日本にもその種の図鑑がほしいと富太郎に著述を勧めた人物だった。ちなみに同じ1906年、烏水と同郷四国の生まれで瀬戸内海国立公園の指定に尽力した小西和が「日本の高山植物」を世に出している、三好が推薦の序文を寄せている。

牧野富太郎は1893（明治26）年、東大で松村任三教授の助手として働き始めた。しかし松村とは仲が悪かった。烏水はそんな事情も知っていたようである。次のような経緯を書き留めた。

「友人に松村博士の植物に関する本を貸そうとしたところ、手にも取らず押し戻した。友人は、牧野先生をいじめるような人の本を手に触れては先生に対して相済まないといふやいていた」といった内容だ。松村博士の富太郎に対する「圧迫は30年も続いた、と先生が自記している」とまで書いた。

日本山岳会が設立したころは登山だけでなく、高山植物への

趣味が起こった時代でもあった。山草や高山植物を栽培する趣味が流行したようだ。

牧野富太郎も日本山岳会の創設期の会員だった。会員番号がつく以前に入会したため番号はなく、紹介者も必要なかったようだ。日本山岳会が元々、日本博物学同志会の支会という形でできたことを考えると、博物同志会の牧野富太郎が入会したのは自然の成り行きだったといえる。日本山岳会創設期の会員うち52人は実に博物同志会の会員でもあった。

1907（明治40）年発行の「山岳」第2号に会員の近況を数行で紹介する小さなコーナーがあり、そこに「会員牧野富太郎、矢澤米三郎、河野齡蔵は7月下旬八ヶ岳に上らる」「会員牧野富太郎は8月下旬、肥前の虚空蔵山、多良岳、肥後の阿蘇山に登らる」と書いた記事などもある。富太郎は山岳に「利尻山と植物」なども発表している。

しかし、会員番号がつくようになった時代には富太郎は日本山岳会を退会していたという。創設期の会員は600人程度もいて、皮肉なことに富太郎と個性のよくなかった松村任三教授



## 新年会のご案内

関西支部恒例の新年会を下記のとおり行いますので、お誘い合わせのうえご出席くださいますようお願い申し上げます。

日時 2011年1月26日(水) 18時より

会場 大阪梅田「大東洋」  
電話06-6312-7525

会費 6,000円

出欠のご返事は同封の葉書に50円切手を貼って、1月12日までにご投函ください。

も日本山岳会の特別会員だった。同じ高知出身で富太郎の幼なじみの植物学者・吉永席馬も山岳会会員だった。  
富太郎はしばしば高知に里帰りしていたが、1906(明治39)年、45歳のときに香川県高松市、小豆島を訪れ、1908(明治41)年には愛媛県松山市、そして1909(明治42)年8月、徳島県教育会主催の「剣山植物講習会」に出席するため徳島の剣山に登山している。

## 2011年1月～3月 支部山行計画

**10-53 陽だまりハイク 播磨の山「三濃山508.6m」**  
日時：1月9日(日) JR相生駅正面バスターミナル 9時30分集合  
(大阪発8:00播州赤穂行き新快速 相生着9:29)  
コース：相生駅＝テクノ大橋北バス停＝登山口＝三濃山＝求福教寺＝金出地分岐＝キャンプ場＝瓜生羅漢＝七柱神社＝瓜生東バス停＝相生駅

地図：2.5万分の1「二本」

備考：青春切符利用

申込み：12月20日迄に 山内幸子へ

FAX：072-762-4506

E-Mail：sacchayama2f0710@m5.gyao.ne.jp

**10-54・55 4000山グランプリ10「観音山・扇形山」**  
日時：1月9日(日)・10日(月)

地図：2.5万分の1「南日裏」「弥山」「中戸」

備考：詳しくは担当者にメールで問い合わせてください。

難易度の高い山 テント山行 一般参加可  
山岳保険加入が必須

申込み：12月20日迄に 重廣恒夫へ

E-Mail：shigehiro-ts@asics.co.jp

**10-56・57 近畿分水嶺踏査22回43・44**

「八風峠～竜ヶ岳・治田峠・藤原岳」

日時：1月29日(土)・30日(日)

コース：29日 八風ロッジ～八風峠～三池山～竜ヶ岳

30日 竜ヶ岳～静ヶ岳～銚子岳～治田峠～藤原岳～大貝戸

備考：山中テント泊 12月までの進捗状況によりコースに変更有

申込み：1月10日迄に(時間厳守) 久保和恵へ

FAX：079-565-0530

E-Mail：uncletorys05-kazu@nifty.com

**10-58・59 4000山グランプリ11**

「勝負塚山・和佐又山」

日時：2月11日(金)・12日(土)

地図：2.5万分の1「洞川」「弥山」

備考：詳しくは担当者にメールで問い合わせてください。

難易度の高い山 テント山行 一般参加可  
山岳保険加入が必須

申込み：1月28日迄に 重廣恒夫へ

E-Mail：shigehiro-ts@asics.co.jp

**10-60・61・62 近場でスキー「ハチ高原」**

日時：2月22日(火)～24日(木)

宿泊：ハチ高原 ねむの木山荘 シュラフ持参

宿泊費・朝食付き2,000円 夕食は自炊

備考：定員10名 車でのご協力をお願いします

申込み：2月10日迄に 山内幸子へ

FAX：072-762-4506

E-Mail：sacchayama2f0710@m5.gyao.ne.jp

**10-63・64 近畿分水嶺踏査23回45・46**

「白瀬峠から御池岳・鞍掛峠まで」

日時：2月26日(土)・27日(日)

コース：26日 大貝戸～藤原山荘～白瀬峠

27日 白瀬峠～御池岳～鈴北岳～鞍掛峠～大君ヶ畑

備考：山中テント泊 1月までの進捗状況によりコースに変更有

申込み：2月17日迄に(締切厳守) 久保和恵へ

FAX：079-565-0530

E-Mail：uncletorys05-kazu@nifty.com

**10-65・66 5支部合同スキー「大品山1404m」**

日時：2月26日(土)・27日(日)

備考：コース等は申込者に連絡

申込み：宿泊所の関係でできるだけ早く

廣田猛夫へ

TEL/FAX：072-792-0971

E-Mail：takeohirota@ybb.ne.jp

**10-67・68 4000山グランプリ12「道齋山」**

日時：3月19日(土)～20日(日)

地図：2.5万分の1「中竜鉾山」

備考：詳しくは担当者にメールで問い合わせてください。

難易度の高い山 テント山行 一般参加可  
山岳保険加入が必須

申込み：3月5日迄に 重廣恒夫へ  
E-Mail：shigehiro-ts@asics.co.jp

10-69・70 近畿分水嶺踏査24回47・48  
「鞍掛峠から三国岳・霊仙山」

日時：3月26日(土)・27日(日)

コース：26日 大君ヶ畑—鞍掛峠—焼尾山—三国岳  
—五僧

27日 五僧—谷山—霊仙山—4合目避難小  
屋—JR柏原駅

備考：山中テント泊 2月までの進捗状況により

コースに変更有

申込み：3月16日迄に(締切厳守) 久保和恵へ  
FAX：079-565-0530  
E-Mail：uncletorys05-kazu@nifty.com

四国同好会の山行

1月ミニ分水嶺 「川井峠から高城山」  
2月ミニ分水嶺 「穴吹から3等横郷・家賀集落」  
3月ミニ分水嶺 「家賀集落から友内山・剪宇峠  
・剪宇集落」

毎月第2土曜の予定

詳しくは参加者に連絡します。

連絡先：久米久夫

TEL：0885-33-1587

E-mail：ta-ko325@shirt.ocn.ne.jp

## 支部図書の再頒布申込について

図書委員 斧田一陽

9月に支部図書の頒布申込みを受付ましたところ、52名から884件の申込みがあり、抽選と先着順により485件の頒布をいたしました。締切後も問合せや頒布残図書の再頒布の要望が寄せられましたので、再頒布の申込みを受付けいたします。

**申込方法** 郵便はがきまたは封書で ①氏名 ②会員番号 ③郵便番号 ④住所 ⑤連絡電話番号⑥頒布希望図書番号 を記載して、〒537-00144 大阪市東成区大今里西2-5-12 大阪セルロイド会館205 日本山岳会関西支部 図書委員会 宛 申込んでください。

**締切** 1月15日(土)必着 先着順に頒布いたします。

**受渡** 頒布図書の受渡しは、原則として宅配便により送付いたします。送料は、受取人払いとし、1月中に送付いたします。ルームで受取希望の場合は、1月31日(月)11時～19時といたします。

**代金** 頒布代金は、お渡しする郵便払込票により、2月28日までにお支払い下さい。

**問合せ** 斧田一陽(全般) Tel/Fax 072-633-6556  
柏木宏信(図書内容) Tel/Fax 0742-44-1214

**対象** 9月に送付した「支部図書 頒布リスト」の内、次の番号が「再頒布リスト」です。

2.3.8～9.11.13～4.18.22.30.38.42.46.51.53.56.64～5.7.8.80.82.89.93.96.97.100.102～6.11.6.118～20.122.126.140～1.150.155.162～4.168.173.175.185～6.194.197.199.201.205.207～8.213～7.219～7.219～21.225～6.229.233～4.238.241.243～4.252～3.257～60.262.～3.265.269.273～5.278～9.281～2.284.286～7.296.304～5.307～9.312～3.316.318～20.323.325.328.331～2.336～9.348～4.347.349～50.352～3.356.361～3.367.369.378.380.382.394～5.401.404～5.412～3.415.417.423.425.428.435.437.439.442～4.449.460～1.468.465～6.471.480.482.484～5.488～90.492.498.500～1.506.508.519～22.524～5.529.536.542～7.549.551～2.555.564～5.572.581.583.585.587.590.593～5.597～9.602.609～11.617.623.629.637.640～6.649～50.652～3.655～60.663.665.675.677～89.691～4.697～702.706～10.712～4.716～7.731～7.742～7.755～7.759.765.771～9.781～2.784～9.791～3.795～6.798～807.

**注** 1～3.の場合は、1.2.3.の番号のことです。

なお、頒布準備のため、6月17日に図書委員会(山田博利 柏木宏信 中谷絹子 先水美智子 野口恒雄 斧田一陽 オブザーバー中島隆)を開催して、頒布方法などを検討し、7月14日の支部委員会です承を得ました。7月21日(田中祥介 斧田)、7月22日(重廣恒夫 山内幸子 廣田猛夫 阪下幸一 先水 中谷 中島 山田 斧田)、7月23日(中島 中谷 重廣 先水 山田 斧田)、7月29日(釘本武昌 中島 中谷 先水 斧田)に、データ作成や整理作業を行いました。

パソコンによるデータリストは、7月22日～9月7日にかけて重廣が作成し、印刷製本を9月8日(先水 斧田 辻村清房)に作業して、支部報発送者に同時発送を依頼する。

斧田が申込整理をし、10月5日(柏木 先水 斧田)に抽選し、6～7日(中谷 先水 斧田)に頒布準備作業をして、10月11日(中島 中谷 先水)、10月12日(中谷 先水)10月14日(中谷 斧田)に配送依頼作業をする。

頒布図書は、二木 梶本 今西 阿部 守山 各文庫など諸先輩や著者など支部の会員の寄贈によるものが殆んどです。出来るだけ蔵書に加えていただき、今一度これらの図書が活用されればと念じています。

2011年1月～3月 自然保護行事

10-(自然)10 本山寺山森林づくり候補地下見  
 期日 1月23日(日) 予備日 1月30日(日)  
 集合 10時 高槻市バス(JR高槻駅北1番乗場乗車) 上の口バス停  
 行程 上の口……神峰山寺……本山寺……本山寺山候補地……上の口(本山寺駐車場まで車両使用の場合あり)  
 内容 森林づくり候補地(本山寺山)の下見 保全林保護 自然歩道周辺環境整備 杉檜林の育林間伐などの現況下見  
 持物 日帰り山歩きに必要なもの  
 地図 25,000分の1「高槻」「京都西南部」「法貴」  
 申込 斧田一陽 Tel/Fax 072-633-6556  
 (立入者届が必要なため厳守 締切1月25日)

地図 25,000分の1「高槻」  
 持物 日帰り山歩きに必要なもの あればごみ袋 片手鋏 鎌 カメラなど  
 申込 斧田一陽 Tel/Fax 072-633-6556  
 締切 2月15日

10-(自然)11 やまみち巡視保全活動6  
 竜王山自然歩道  
 期日 2月24日(木) 予備日 2月25日(金)  
 集合 9時30分 阪急 京都線 茨木市駅西口バス2番乗場付近  
 行程 阪急茨木——忍頂寺……竜王川……車作高橋——阪急茨木

10-(自然)12 自然観察会 フクジュソウ 山行委員会と共催  
 期日 3月2日(水) 予備日 3月3日(木)  
 集合 9時20分 JR京都線 高槻市駅北バス乗場2番付近  
 行程 阪急高槻——中畑……大原野森林公園……西コース……ボンボン山……本山寺山……本山寺……神峰山寺……下の口——JR高槻(行程の一部で本山寺の森林づくり候補地の隣接地を通ります)  
 内容 ボンボン山のフクジュソウ群落を観察します  
 持物 日帰り山歩きに必要なもの  
 地図 「高槻」「京都西南部」「法貴」  
 申込 斧田一陽 Tel/Fax 072-633-6556  
 締切 2月25日

パタゴニアを代表する2大山群で特異な岩峰に迫るトレッキング

パタゴニア・スーパー・トレッキング  
パイン&フィッツロイ山群 15日間

	出発日～帰着日	旅行代金(東京発着)
増設	2/ 9(水)～2/23(水)	¥736,000
満席	2/11(金)～2/25(金)	
	3/ 3(木)～3/ 3(木)	¥754,000

大阪/東京間の国内線手配承ります

パイン&フィッツロイ山群で、山頂やテントを築きながらトレッキング。自然が作りあげた雄大な自然の風景が目の前に広がります。



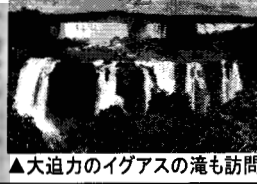
パイン、フィッツロイはもちろん最南端の町ウシュアイア、そしてイグアスへ

パタゴニア大周遊ハイキングと  
イグアスの滝 15日間

	出発日～帰着日	旅行代金(東京発着)
	1/11(火)～1/25(火)	¥858,000
残2	2/ 8(火)～2/22(火)	
	3/14(月)～3/28(月)	¥878,000

大阪/東京間の国内線手配承ります

パイン山群、フィッツロイ山群でのハイキングと大滝の雄姿、自然の雄偉な風景は、世界最高峰の町ウシュアイアでハイキング。最後は世界最大の滝イグアスです。



▲大迫力のイグアスの滝も訪問



観光庁長官登録旅行業第490号/(社)日本旅行業協会正会員

ボンド保証会員

パイン&フィッツロイ ツアーズ サービス 株式会社

大阪 06-6444-3033  
 〒550-0003  
 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2階

発行日 平成二十二年十二月十日  
 発行所 〒537-0014 大阪市東成区大今里西二一五-十二  
 大阪セルロイド会館二階  
 日本山岳会関西支部  
 (〇六六九七一・八〇六七)  
 重廣恒夫  
 柏木宏信 先水美智子  
 加藤芳樹 野口恒雄  
 株式会社 双陽社  
 大阪市北区堂島二一-二八

〈編集後記〉  
 ☆先日の関西支部の蔵書販売、欲しい書籍はいくつもあったのですが、3冊だけ手に入れることができませんでした。そのうちのひとつに、『この山なみの声』(信濃毎日新聞社編)。昭和39年の発行で、当時とは事情が違っても、示唆に富んだ内容で、勉強になりました。もっと言うなれば、大学山岳部隆盛の当時にさえ「登山」に対する意識の甘さが問題になってきているのに、無所属登山者の多い昨今、その危険性は増大しているとも言えます。目指している登山が違ってもはいえ、山は山。登山の楽しみを啓蒙しつつ、その危険性も併せて伝えていかなければならないと思いを新たにしました次第です。☆次号の締め切りは12月末日(厳守)です。(Y・K)

飛驒山岳会百周年記念出版

# 飛驒の山

～研究と案内～

◎飛驒山岳会 編著  
A5判 328頁 2625円

創立百周年を迎えた飛驒山岳会の岳人たちの飛驒の山への熱いメッセージ。飛驒百余山の山行案内と、笠ヶ岳・錫杖岳の岩壁登攀、御嶽西面の沢登り、乗鞍岳・白山のスキー登山等の活動記録を紹介。

# 生駒山

～歴史・文化・自然にふれる～

◎(財)大阪府みどり公社 編 生駒山系歴史文化研究会 著  
A5判 200頁 1785円

奈良と大阪の境にあり、豊かな自然とともに数々の歴史と文化を育んできた生駒山。その知られざる見どころを紹介。写真多数掲載。

# 写真で見る 京都自然紀行

◎石田志朗 監修 / 京都地学教育研究会 編著

A5判オールカラー 224頁 1995円  
京都の自然と人の関わりを写真で再現。「地学」の目で景観や歴史を見直すと、魅力がより明らかに。便利なアクセスマップ付。

# 西国三十三所道中案内地図

◎森沢義信 著 [上] (二冊本) B5判カラー 各2520円

身近な札所から歩ける巡礼必携のルート地図。オールカラー。

[上] 伊勢神宮～一番青岸渡寺～十四番三井寺まで  
[下] 十五番今熊野観音寺～三十三番谷汲山華嚴寺

# 極上の山歩き

～関西からの山12ヶ月～

◎草川啓三 文・写真 A5判 127頁 1575円

春夏秋冬、ひとの心をとらえる珠玉の山々の中から、達人が薦めるランキング上位30山を新スタイルでガイドする。

## 海外旅行企画 語学留学・海外研修 各種保険コンサルティング

“個人”から“団体”まであらゆるご旅行をサポート致します。  
各種格安航空券も取り扱っております。

目的・対象・人数等に合わせて“教育効果の高い”研修旅行をサポート致します。

海外旅行保険、傷害保険、生命保険、ガン保険、自動車保険、火災保険などあらゆる保険のご相談を承ります。

<国土交通大臣登録 旅行業第1409号>  
<日本旅行業協会正会員><ボンド保証会員>

### 編アーケスリー・インターナショナル

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-2-2  
ヒルトンプラザウエスト 9階

TEL:06-6347-7888 FAX:06-6347-7887

